

「労働力不足と健康管理」

宮古地域産業保健センター 西里えり奈

宮古地区の働き盛り世代の皆様へ健康情報をお届けするため、毎月 1 回リレー方式で記事を書いています。今回は宮古地域産業保健センターが担当いたします。

直近の宮古地区の有効求人倍率は 1.65 倍で、多くの職場で労働力不足が問題となっていますが、2030 年には全国で 644 万人の労働力が不足する試算となっています。

パーソル総合研究所「労働市場の未来推計 2030」では、不足する労働力を補うための案として、女性の社会進出や高齢労働者の労働環境の整備などと併せて「生産性の向上」を有効な解決策として示しています。

この生産性に大きな影響を与えるのが「労働者の健康」です。健康でない労働者は健康な労働者と比べ生産性が低くなる（一時間あたりにできる仕事量が少なくなる）ことが分かっていますが、多くの場合、会社側の健康管理でこの生産性を上げることができます。

高血圧や高血糖、貧血やひどい生理痛、鼻炎や腰痛、頭痛などを「いつものこと」として働いている方は、けして自分の力を 100% 出せているとは感じていないでしょう。何かしらの不快感や痛みを感じ、そのために多くの休息も必要とするからです。

さらに、仕事前日の深酒でパフォーマンスを下げってしまう人もいます。喫煙の習慣のある人の中には、1 時間おきにタバコ休憩をとる人もいます。

こうした状態を改善するために、会社側は健康経営に関心を向け、環境整備や健康診断後の措置をしっかりと行うことが必要です。

健診結果はそのままにせず、しっかりその内容を把握して受診に繋げる。データの改善を確認する。朝のアルコールチェックをする。会社を敷地内禁煙にする。運動を念頭に置いた福利厚生を充実させる。こうした小さな健康への意識づけを会社側が進めていくことで、少ない労働力を補う生産性を少しずつ上げることができます。沖縄県の健康おきなわ 21 に、健康経営を進めるための分かりやすいハンドブックと事例集が載っていますのでぜひ参考にしてください。(図挿入：二次元コード)

沖縄県では働き盛り世代の死亡率が高くなっていますが、その結果、かつて長寿県と呼ばれた沖縄の男性の平均寿命は全国で 43 位という順位になっています。死亡原因として脳内出血や、急性心筋梗塞、くも膜下出血などの高血圧関連疾患の他、糖尿病や肝疾患の合併症などが挙げられていますが、これらは長年の生活習慣の積み重ねの結果によるものです。

宮古地域産業保健センターでは、健康問題で退職する労働者を無くし、労働者が健康で安全にいきいきと働くことができるよう事業所のサポートを行っています。特に今年からはデータの改善に向けて保健指導に力を入れていく方針です。相談・利用は無料です。ぜひお問い合わせください。

(73-0222)

次は宮古保健所へバトンを繋ぎます。

がんずらスタイル健康づくりリレー連載 第93回(令和5年5月)

【URL：健康おきなわ21ホームページ > 健康経営ハンドブック】

